

国立病院機構熊本医療センター

No.172



発行所
国立病院機構熊本医療センター
〒860-0008
熊本市二の丸1番5号
TEL (096)353-6501(代)
FAX (096)325-2519

NHO KUMAMOTO MEDICAL CENTER KUMABYO NEWS

くまびょうNEWS

平成23年度第1回(通算第31回) 開放型病院連絡会が開催されました

開放型病院運営協議会委員長 熊本市医師会長福島先生のご挨拶

平成23年度第1回開放型病院連絡会は、登録医の先生方をはじめ看護師、MSW、事務の方なども含めて多数の皆様に参加していただき、9月6日火曜日19時より、くまもと県民交流館（鶴屋東館）パレアホールにて開催されました。

開始に当たり、池井聰院長がご参加の皆様へ、日頃より当院をご支援頂きますとともに病病・病診連携では大変お世話になっておりますことに対しまして御礼を述べた後、防災ヘリによる新しい航空医療が開始され順調に経過していること、更に院内保育園の新設移転が終了し、約10年にわたる新病院工事が終了しましたことをご報告致しました。続いて、開放型病院運営協議会委員長の熊本市医師会長福島敬祐先生よりご挨拶をいただきました。福島先生は、この開放型病院の意義を再確認され、益々開放型病院の先生方と本院の病診連携が進むことを希望される旨お話しいただきました。続く全体会議では、3月11日の東日本大震災における当院の災害医療支援報告を、1)「DMAT」を原田正公救急科医長、2)「被爆スクリーニング」を清川哲志教育研修部長、3)「災害救護医療」を鶴田敏久臨床検査科医長が

それぞれ発表いたしました。続いて、病院からのお知らせとして、高橋毅救命救急部長が当院の「ヘリポート運用開始」につきご説明致しました。最後に、熊本市歯科医師会長清村正弥先生より、当開放型病院と熊本市歯科医師会との関係につきご挨拶をいただき、全体会議をまとめていただきました。総会終了後は、会場を鶴屋ホールに移し、意見交換会を開催しました。開放型病院運営協議会委員長の熊本市医師会長、福島敬祐先生のご挨拶、来賓の熊本県医師会長の福田稔先生にご挨拶をいただき、その後、当院の幹部職員及び各診療科の主任部長・医長を紹介致しました。そして熊本市医師会副会長、加来裕先生の乾杯の音頭で開宴しました。各テーブルには、各科の名前を明示し、各科の医師及び看護師、各部門の責任者、MSWなどが待機して懇談をさせていただきました。前回に続き医師以外の方の参加者も多く、MSW、病診連携担当の方々などとの顔の見える病病・病診連携ができ、意見交換が積極的に行われ、大変実りの多い意見交換会になったと思われまます。(副院長 河野 文夫)



熊本県医師会長福田先生のご挨拶



熊本市歯科医師会長清村先生のご挨拶



熊本市医師会副会長加来先生の乾杯



意見交換会の様子



「能楽で疲れを取りませんか」

あらき循環器内科

院長 荒木 春夫

西子飼町で循環器内科を開業して17年になります。熊本医療センターは当院の診療範囲に近く、患者さんの紹介希望が多い基幹病院です。救急患者を断らないという方針は開業医に大きな安心感を与えています。救急時に対応される先生方の態度にも好感が持てます。救急患者を紹介する際電話連絡した上で、診療情報をFAXするようにしています。代表電話番号や救急救命センターのFAX番号を外来担当医師表に記載していただきますと助かります。ご検討をお願い致します。

私も63歳になり勤務医であれば定年を越えています。そろそろ好きなことをして暮らしてもよい年ではないかと思いますが、診療が忙しく土、日曜日でも残務整理で潰れてしまいます。時間を費やすゴルフは数年に一回しか行けません。しかし、6年前に一生涯続けたいと思う趣味に出会いました。能楽です。

子供の頃、映画で殿様が能を楽しむ場面を見て日本文化の真髄と憧れていました。特に独特の緩やかな足の運びを美しいと感じました。織田信長が桶狭間での決死の戦いに臨んで自ら舞う「敦盛」がかっこいいと思いました。診療終了後に月2回、喜多流の狩野秀鵬先生にご指導いただいております。室町時代に世阿弥らが作った曲を謡い、舞い、日本の古典の世界に遊ぶことで診療の疲れが飛び去ってしまいます。

加藤、細川家を通して能楽が奨励され、熊本は金沢とともに全国で能楽が盛んな藩でした。明治維新の文明開化により大名というパトロンを失った日本の能楽は衰亡の危機に瀕しましたが、熊本から桜間伴馬、友枝三郎という二人の能楽師が上京して活躍し、日本の能楽界を再興させる原動力となりました。熊本の能楽は全国的に誇れる歴史を持っています。

診療でお疲れの熊本医療センターの先生方、能楽で幽玄の世界に触れ、疲れを取りませんか。興味を持たれる方のご連絡をお待ちします。



荒木先生よりご指摘頂き、10月の外来担当医表より代表電話番号・FAX番号を掲載させて頂くことになりました。貴重なご意見有難うございました。
(経営企画室長 中村 敦)

共同指導をご活用下さい

先生方には日頃より患者様のご紹介を頂きありがとうございます。

共同指導は、かかりつけ医からのご紹介の患者様をご入院された場合、ご紹介を頂いた先生が当院にお越し頂き、当院の担当医師と共同で診療を行うものです。患者様はかかりつけ医と当院の担当医師とで情報の共有を行うことにより、入院中および退院後の治療をよりスムーズに受けることができます。

当院における共同指導実施に関するシステムについてご案内させていただきます。

1. ご来院時の受付場所

平日(8:15~17:15) 4F **10** 地域医療連携室
時間外・土日曜日・祝日 4F **23** 時間外受付

ご来院時に受付簿にお名前、来院時間をご記入の上、名札をお受け取り下さい。

先生のご来院を病棟、担当医にご連絡させていただきます。



10 地域医療連携室



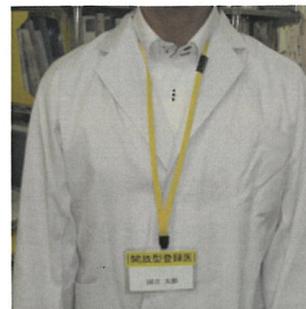
23 時間外受付

2. 地域医療連携室の「医師会用ロッカー」をご利用
頂き、名札、白衣の着用をお願いします。

時間外受付の場合は、受付時に鍵をお渡し致します
ので、相談室1のロッカーをご利用下さい。



医師会用ロッカー



共同指導医用名札

3. 紹介患者様の入院病棟へお越しの際は、中央エレベーター
をご利用頂き、ご来棟下さい。

病棟では看護師に患者様のお名前をお伝え頂き、「共同指導
実施伝票」をお受け取り頂き、診療録の閲覧、当該患者様の
共同指導をお願い致します。



4F 中央エレベーター

4. 共同指導内容等は「共同指導実施伝票」に記載し、
記載された伝票は、共同指導専用レターボックスに
お入れ下さるようお願い致します。

レターボックスは、スタッフステーション内に設置され
ております。

ご不明な点がございましたら、お気軽にスタッフにお尋
ね下さい。



共同指導実施伝票



レターボックス

5. お帰りの際は、地域医療連携室（時間外は時間外受付）にて離院時刻等の必要事項をご記入頂き、
白衣・名札をご返却下さい。

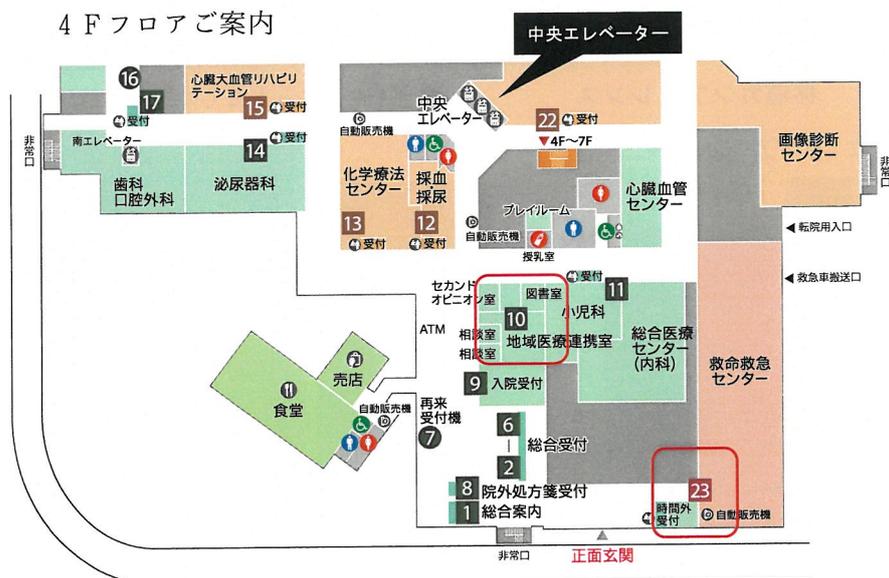
駐車場をご利用の時は、駐車券の無料の手続きをさせて頂きます。地域医療連携室（時間外は時間外受付）
へお申し付け下さい。

※共同指導を行う為には登録医にな
って頂く必要があります。
登録をされていない先生は地域
医療連携室にご連絡下さい。申
込用紙に必要事項をご記入頂く
だけで結構です。

当院へ紹介された患者様の最善の
治療を行うために、共同指導の制
度を是非ご活用下さい。

（地域医療連携係長

田中 富美子）



病棟紹介〈7〉

6 南病棟

血液内科病棟で急性骨髄性白血病・急性リンパ性白血病・悪性リンパ腫・多発性骨髄腫などのあらゆる血液悪性腫瘍に対し、化学療法・放射線治療・移植治療を実施しています。

熊本県下では、唯一の同種移植施設となっており、骨髄移植・臍帯血移植・同種末梢血幹細胞移植・自家末梢血幹細胞移植が年間約50例行われています。あらたに移植エリア（バイオクリーンルーム15床）が設けられ、移植後の感染予防のさらなる充実がはかれるようになりました。治療による副作用の悪化や感染症を予防するため、口腔ケアの充実や疼痛緩和をチーム全体で関わっています。今後は栄養管理・リハビリ・関連病院との連携を図り、入院中から退院後の生活を考慮した援助を充実させていきたいと思ひます。 （6南病棟師長 高尾 珠江）



6南病棟のスタッフ



長倉医師と6南スタッフ



移植カンファレンス



安全キャビネットにて注射のミキシング

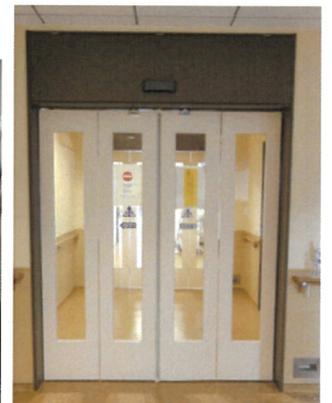
《 移 植 エ リ ア 》



移植エリアスタッフステーション



バイオクリーンルームでの看護の様子



無菌室入口

2011 診療科紹介(41)

皮膚科



医長
牧野 公治
皮膚科一般
医学博士
日本皮膚科学会認定皮膚科専門医



医師
梶原 一亨
皮膚科一般
日本皮膚科学会



医師
中村 香代
皮膚科一般
日本皮膚科学会

診療内容と特色

国立病院機構熊本医療センター皮膚科は、地域の急性期中核病院の皮膚科として、入院治療を必要とする皮膚疾患を中心に診療しております。広範囲に及ぶ各種皮膚疾患、全身管理を要する中毒疹、水疱症、ウイルス・細菌感染症、そして大きい皮膚腫瘍切除や植皮といった手術センターで手術を行う症例などを受け入れています。また外来診療では、地域の皮膚科はもちろん他科の先生方からご紹介頂いた方、合併症をお持ちの方、全身症状と深く関わる皮膚疾患の方を中心に診察しています。ほかにも褥瘡対策委員会の中心とし

て、関連科医師やコメディカルスタッフと共に入院中の褥瘡治療や予防に携わり、よりよい入院生活を送っていただけるよう努めております。

スタッフですが、2011年4月に牧野公治（2001年卒）が医長として8年ぶりに当院に着任しました。同じく4月に着任した梶原一亨（2004年卒）と10月から着任した中村香代（2009年卒）の3人体制で診療にあたっています。特定の専門領域はありませんが、皮膚科全般を幅広く診療しています。

皮膚疾患は皮膚に限局するものだけで決してなく、全身に影響を与えるもの、全身症状の一部として生じるもの、そして他の疾患が原因で生じるものと様々です。総合病院である当院の特徴を生かして他科と協力し、またご紹介頂く先生方とも連携してスムーズに診療できるよう努めています。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

診療実績

2010年の外来患者数は合計8524名、うち新患1050名、紹介率45.7%、逆紹介率52.4%でした。外来の医療設備としてはナローバンドUVB照射装置（デルマレイ-200）、ダーモスコープ、電気メス、ミニドライアイスメーカーを備えています。

また同年の入院患者総数は161名、1日平均7.7人の在院、平均在院日数は12.9日でした。手術センターでの手術は84例で、皮膚腫瘍の切除や皮膚欠損に対する植皮術などを主に行いました。

ご案内

受付時間外のご来院は原則救急外来で対応するためご不便をおかけすることがあります。時間外にご紹介いただく場合は、是非事前に当院の皮膚科外来またはオンコール係までお電話下さい。休日も10時半～正午頃までは概ねオンコール係が在院しております。また紹介患者様の入院適応については最終的に当科で判断させていただきますが、特に入院を希望される方につきましては有料個室が確保しやすい旨を事前にお伝えいたしますと幸いです。

**いま、国立病院機構
熊本医療センターで
何が研究されているか**

シリーズ58回

「非密封の放射性医薬品を取り扱う医療従事者のより安全な作業環境の実現」

診療放射線技師 山下 一也



私の研究は『非密封の放射性医薬品を取り扱う医療従事者のより安全な作業環境の実現』というテーマで、3年間の予定です。

熊本医療センターでは非密封の放射性医薬品を用いた核医学検査が行われており、その被ばくにより、医療従事者が健康障害を起こす可能性があります。そのため、労働者の健康障害を未然に防止するための法律として作業環境測定法があります。

作業環境測定法では作業環境の実態を把握するため空気環境やその他の作業環境について行うデザイン、サンプリング及び分析を行うのが作業環境測定士と定義されています。作業環境測定士には第1種作業環境測定士と第2種作業環境測定士があり、非密封の放射性医薬品の作業環境についての分析は第1種作業環境測定士でないと実施できません。当院には2名の第1種作業環境測定士が日常業務の合間に月に1度のサンプリング及び分析を行っています。揮発性のあるヨードを用いた¹²³I-IMP（脳血流シンチ用放射性医薬品）を使用した検査後はサンプリングが必要と考えます。より安全な作業環境を実現するためには第1種作業環境測定士を増やし、多数による作業環境の測定によって、現状以上のサンプリング及び分析を行い、より安全な医療従事者の作業環境を実現したいと考えています。また、非密封の放射性物質を扱う施設は作業環境測定士が在籍しなければ、測定や分析のために外部の

委託業者に依頼しなければなりません。人事異動などにより第1種作業環境測定士が在籍しないということを防ぐためにも、第1種作業環境測定士を増やすことが必要です。

第1種作業環境測定士の取得にはまず第2種作業環境測定士の取得が必須です。第2種作業環境測定士の取得には東京や大阪の講習機関での3日間の講習と認定試験があり、第1種作業環境測定士の取得には東京の日本アイソトープ協会での2日間の講習と認定試験があります。

昨年の1年目は第2種作業環境測定士取得、今年の2年目は第1種作業環境測定士取得します。そして3年目は非密封の放射性医薬品を取り扱う医療従事者のより安全な作業環境の実践を計画しています。



作業環境測定に使用する
ダストサンプラー

**万国外科学会グラス賞を受賞しました
～ Dr.ヴァンスのすごさを実感しました!～**



臨床研究部長

芳賀 克夫

万国外科学会は、2年に一度開催される外科最大の国際学会です。今年は8月28日から9月1日までの5日間、日本の横浜で開催されました。一般演題の応募は優に1500題を超え、消化器外科の分野から優秀な抄録7題がグラス賞の候補として選ばれました。グラス賞とは、本学会の設立に大きく貢献したイタリアの故グラス教授を記念して名づけられたもので、一般演題の中から最も優れた発表に贈られる栄誉ある賞です。当日この候補7題の発表内容を見て、審査員がグラス賞を決定するという運びでした。幸い私も候補に選ばれましたので、昨年当院に来られましたエール大学言

語学のヴァンス教授のプレゼン法に則ってプレゼンの練習を行い、当日の発表に臨みました。この賞の候補者には、オーストラリアやニュージーランドなどの英語のネイティブ・スピーカーが含まれていました。私は2番目の発表で、ヴァンス先生に習ったように、カジュアルで且つエレガントなプレゼンを行うように努めました。すべての発表が終わった後、受賞者が発表されましたが、なんと私にグラス賞が授けられたのです。本当に驚きでした。ヴァンス先生の指導がこれほどまでに効果があるとは思いませんでした。アメリカでは、言語学者に指導を受けて語彙力を高めた人が、ビジネスでも成功すると言いますが、正にこれを実体験することができたのです。今回気付いたことは、多くのネイティブ・スピーカーの医師も、実は言語学者から正しいプレゼンの方法を教育されていないということです。いくら研究内容が優れた発表でも、丁寧な挨拶やお礼の言葉を言わなかったり、力強い強調するフレーズに欠けていると、相手に好印象を与えることはできません。私はヴァンス先生のような超一流の言語学者に指導していただいたことに心から感謝した次第です。

最近のトピックス

骨盤臓器脱 (POP) を治してポップな人生を



泌尿器科

鍛田 知子

「骨盤臓器脱 (POP: Pelvic Organ Prolapse)」という言葉が聞かれたことはありませんか？

骨盤臓器脱とは膣から骨盤臓器 (膀胱・子宮・直腸など) が脱出してくる疾患で、出産経験のある比較的高齢の女性に多い疾患です。性器脱や膣脱とも呼ばれます。また、この脱出したものが、股に何か挟まった感じという症状としてでてきます。

骨盤臓器脱の主な原因は骨盤底筋の弱りです。骨盤底筋は骨盤の底にあり、骨盤内の臓器を支えている筋肉の集まりでハンモックのような役割をしています。女性の場合出産という大きなイベントを経るため、この骨盤底筋が引き延ばされ伸びきってしまったり、出産を繰り返すことで筋肉の弱りが大きくなります。また、閉経を迎え女性ホルモンの分泌が少なくなると骨盤底筋の弱りが加速されます。そのため、比較的高齢の女性で骨盤臓器脱が多くなります。

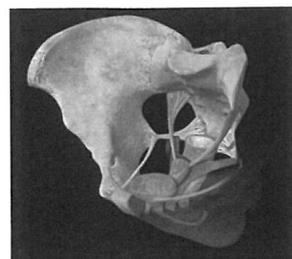
この治療として、最近ではメッシュを用いたTVM手術が広まってきており、当院泌尿器科でも取り組んでいます。「TVM」とはTension-free Vaginal Meshの略で、日本語に訳すと「緊張のない状態でメッシュ

を膣内に入れる」という意味です。骨盤底全体をメッシュでハンモック状に支え、臓器が膣から脱出してこないようにします。骨盤臓器を無理に引き上げず、より自然な位置に矯正し、力がかかってもそれ以上下がらないようにする手術です。従来手術は、弱った膣壁を用いて修復を行うため再発率が高く (30%以上)、子宮自体に病気が無くても子宮を摘出したり、前後の膣壁を縫い縮める結果、性交に支障を来すといった問題点がありました。これに対してTVM手術は、弱った膣壁の代わりにメッシュを用いて弱った支持組織をおきかえる手術法で、再発率が10%と低く、原則として子宮は温存出来る、体に優しい手術です。今まで治療が難しかった子宮摘出後の膣断端脱に対しても治療が可能な万能術式であると言えます。手術は膣の前壁に対しメッシュで補強し新しい支持を作るTVM-A (前方TVM) と後壁に対して同様に行うTVM-P (後方TVM) の二つの組み合わせで行います。どちらも膣の壁を縫い縮めることはしないので後で膣が狭くなったり浅くなったりすることはありません。

骨盤臓器脱は治る病気です。悩んでいる患者さん、また泌尿器はちょっと行きにくいという患者さんがおられましたら、当院では女性泌尿器科医が診療いたしますので、お気軽に受診をすすめてみてください。



TVM-A



TVM-P

2011年度の日本臨床麻酔学会誌賞を受賞しました



救命救急部

小寺 厚志

このたび、2009年・2010年に発行された日本臨床麻酔学会誌の掲載論文の中から、私の投稿論文「90歳以上の腹部緊急手術症例におけるリスク評価法P-POSSUMの有用性」(日本臨床麻酔学会誌 2010; 30(4): p619-624) が、2011年度の日本臨床麻酔学会誌賞を受賞したのでご報告します。

この論文は、熊本大学大学院での学位副論文です。

学位主論文である「Evaluation of Estimation of Physiologic Ability and Surgical Stress to predict of in-hospital mortality in cardiac surgery」は、Journal of Anesthesiaへ採択されました。いずれも芳賀克夫先生の指導で完成した論文で、副論文で日本臨床麻酔学会誌賞を受賞し、主論文で医学博士課程を修了した結果を大変うれしく思うとともに、芳賀克夫先生に深く感謝いたします。

2011年11月3日～5日に開催される第31回日本臨床麻酔学会総会で、受賞記念の講演依頼があり、「高齢者の緊急手術症例におけるリスク評価の目的と意義」というタイトルで講演を行う予定です。

今回の受賞に甘んじることなく、今後も論文活動に励んでいく所存です。また講演会の結果や表彰状など、機会があれば再び報告したく思います。

研修医レポート

臨床研修医

1年次 そのだ 園田 たかよし 隆賀



こんにちは。研修医1年目の園田隆賀と申します。佐賀大学医学部を卒業し、4月から熊本医療センターで初期臨床研修させていただいております。研修開始から5か月がたちますが、まだまだ診療やその他の業務についてもわからないことが大変多く、スタッフのみなさんに迷惑をかけながら精一杯日々を送っています。

私は、4月に糖尿病内分泌内科から研修をスタートいたしました。正直、最初は電子カルテの使い方、薬の処方、検査のオーダーなどを覚えることで精一杯でした。何もわからない自分に、指導医の先生をはじめスタッフ、研修医の先輩方が熱心に指導して下さり、何とか一通りこなせるようになりました。医師になる

臨床研修医

1年次 かしわぎ 柏木 やすし 寧



こんにちは、研修医1年目の柏木寧です。3月末に大阪からやって来て、熊本の地での生活が始まり早5ヶ月が経過しました。今では熊本市内だけですが少しずつ地名と場所がわかるようになり、上熊本と北熊本の区別も混乱しなくなりました。

研修については救命救急部から始まり、糖尿病・内分泌内科、そして麻酔科にて研修をさせてもらっていますが、内分泌内科からがらりと環境が変わった中、現在少しずつですが麻酔科の雰囲気にも慣れてつあります（この文章を書いているのは麻酔科研修の1週経過の時点です）。

最初に回った救急部では静脈ルート確保や動脈採血

ことは、医学の知識をつけること、手技を身につけることだけではないのだなと痛感した4月でした。診療の面では、基本的な血糖コントロールの考え方や実際の薬物療法、食事療法、運動療法だけでなく、患者教育についても学ばせて頂きました。

次にローテートした麻酔科では、内科では経験できなかった多くの手技についても行わせていただきました。気管挿管をはじめ、腰椎穿刺、動脈ルート確保など、毎日のように行う機会があり、輸液ポンプ、人工呼吸器などの医療器具についても実際の使用方法を学ぶことができました。患者のバイタル等の状態の変化に対し、自らで考えて対応する機会も多く、緊張感を持って研修することができたと思います。

現在は神経内科で研修を行っています。脳梗塞の急性期治療が主ですが、神経内科領域のことだけでなく、感染症、心不全などの病態を合併している例も多く、勉強しなければならないことが山積みです。

救急外来の当直、研修科のオンコールと忙しい日々ではありますが、周りの先生方から熱心なご指導を頂き、充実した研修を送らせていただいております。この先まだまだご迷惑おかけすると思いますが、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

といった基本的手技を身に付けるのはもちろんのこと、病棟では様々な疾患入院されている患者さんの診察をさせていただきました。重症の患者さんを前に自分の無力さに打ちひしがれ放してでしたが、多くの経験をつませていただくことが出来ました。

糖尿病・内分泌内科では糖尿病教育入院で入院されている患者さんと対話を通して退院後どのように生活を送っていけば良いかを考える内に自分自身の生活習慣も振り返る経験をさせていただきました。また内分泌疾患の検査では学生時代の教科書では内容がさらりと書かれている程度でしたが、実際は多くのスタッフの協力の下で成り立っているのだと知りました。

現在の麻酔科は始まったばかりでまだまだ慣れないことが多いですが既に指導医の先生の熱い指導の下で麻酔の流れや手技を教わっております。これからも様々な科でご迷惑をおかけすると思いますが一つ一つ物事を身につけお役に立てられるよう努力します。どうぞご指導のほどよろしくお願いいたします。

研修のご案内

第50回 シンポジウム (無料)

[日本医師会生涯教育講座2単位認定]

日時▶平成23年10月14日(金)19:00~21:00

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

座長 熊本県医師会理事

林 邦雄 先生

「医療の将来—急性心筋梗塞と医療連携—」

1. 心筋梗塞における心臓リハビリテーションの重要性
熊本リハビリテーション病院副院長 松山公三郎 先生
2. 急性期病院の立場から
国立病院機構熊本医療センター循環器内科医長 藤本 和輝
3. 回復期リハビリテーションにおけるアセスメントの共有化
青磁野リハビリテーション病院理事長 金澤 知徳 先生
4. 行政の立場から
熊本県健康福祉部政策監 藤中 高子 先生

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501(代表)内線2630 096-353-3515(直通)

第153回 月曜会 (無料)

(内科症例検討会)

[日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]

日時▶平成23年10月17日(月)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

1. 胸部レントゲン読影
 2. 持ち込み症例の検討
 3. 症例検討「検診で見つかったANCA関連腎炎」
国立病院機構熊本医療センター腎臓内科 石田 俊史
 4. ミニレクチャー「慢性骨髄性白血病の治療の進歩」
国立病院機構熊本医療センター血液内科医長 日高 道弘
- 日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線、心電図、その他がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター研修部長 清川 哲志 TEL:096-353-6501(代表) FAX:096-325-2519

第122回 三木会 (無料)

(糖尿病、高脂血症、高血圧を語る会)

[日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]

[日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定]

日時▶平成23年10月20日(木)19:00~20:45

場所▶国立病院機構熊本医療センター研修室2

1. 「低Mg血症により低Ca血症を呈したと思われるパセドウ病の1例」
国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科 嶋田さやか、児玉章子、高橋毅、豊永哲至、東輝一朗
 2. 「アルコール多飲およびβブロッカーの服用による低血糖を来した1例」
国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科 豊永哲至、嶋田さやか、児玉章子、高橋毅、東輝一朗
- なお、興味のある症例、疑問・質問のある症例がございましたら、お持ちいただきますようお願い致します。

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター内科部長 東 輝一朗 TEL 096-353-6501(代表)内線5705

第104回 総合症例検討会(CPC)

[日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]

日時▶平成23年10月26日(水)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

テーマ:『急激な呼吸不全と心不全の進行を認めた一例』 (80歳代 女性)

臨床担当) 国立病院機構熊本医療センター救急科

病理担当) 国立病院機構熊本医療センター臨床研究部病理研究室長 村山 寿彦

「一人暮らしで、慢性心不全があり近医に通院中であった。家族が訪問したところ、呼吸困難と全身のむくみがあるために救急車を要請。当院に緊急入院となった。」

*臨床経過の詳細な検討と鑑別診断を行います。最後に病理よりマクロ、ミクロの所見と剖検診断が解説されます。通常のレクチャー(解説)の前に、馴染みの少ない疾患、病態は、その分野に関するミニレクチャーを予定しております。基本的知識を学んだ後で活発なディスカッションをお願い致します。どなたもお気軽にご参加下さい。

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501(代表)内線2630 096-353-3515(直通)

第16回 症状・疾患別シリーズ(会員制)

[日本医師会生涯教育講座2.5単位認定]

日時▶平成23年10月29日(土)15:00~17:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

座長:熊本市医師会

明石 隆吉 先生

演題:「炎症性腸疾患の病態と治療」

1. 内科の立場から 国立病院機構熊本医療センター消化器内科 尾上 公浩
2. 小児科の立場から 国立病院機構熊本医療センター小児科部長 高木 一孝
3. 血液浄化センターにおける治療 国立病院機構熊本医療センター腎臓内科医長 富田 正郎
4. 炎症性腸疾患の最近の話題 福岡大学筑紫病院消化器科教授 松井 敏幸 先生

この講座は有料で、年間10回を1シリーズ(年会費10,000円)として会費制で運営しています。但し、1回だけの参加を希望される場合は1回会費2,000円で参加いただけます。

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局

TEL 096-353-6501(代表)内線2630 096-353-3515(直通) FAX 096-352-5025(直通)

2011年

研修日程表

10月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

10月	研修センターホール	研修室	その他
1日(土)	13:30~16:00 看護卒後研修 「医療者のためのメンタルヘルスケア (うつ病予防、バーンアウト防止)」 臨床心理士 原田 剛代		
3日(月)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
4日(火)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~19:00 外科術前症例検討会 C1 18:00~21:00 救急部カンファレンス C2
5日(水)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
6日(木)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 7:50~9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
7日(金)		18:30~20:00 熊本地区核医学技術懇話会(研2)	7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~9:00 消化器病研究会 C1
11日(火)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~17:00 外科術前症例検討会 C1 17:00~21:00 泌尿器科・放射線科合同ウログラム C1 18:00~21:00 救急部カンファレンス C2
12日(水)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
13日(木)		18:30~20:00 熊本県臨床衛生検査技師会 一般検査研究班月例会(研2)	7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 7:50~9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
14日(金)	19:00~21:00 第50回 シンポジウム(研修ホール) 【日本医師会生涯教育講座2単位認定】 座長 熊本県医師会理事 林 邦雄 「医療の将来-急性心筋梗塞と医療連携-」 1. 心筋梗塞における心臓リハビリテーションの重要性 2. 急性期病院の立場から 3. 回復期リハビリテーションにおけるアセスメントの共有化 4. 行政の立場から	15:30~16:45 肝臓病教室(研2) 【肝硬変】	7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~9:00 消化器病研究会 C1
15日(土)	9:30~16:00 第29回 ナースのための心電図セミナー 「心電図の基礎 各種心疾患における心電図 不整脈 〈実習〉心電計の取り扱い方」	国立病院機構熊本医療センター循環器内科医長 国立病院機構熊本医療センター循環器内科医長 末廣内科循環器科 院長	宮尾 雄治 藤本 和輝 末廣 久和
17日(月)	19:00~20:30 第163回 月曜会(内科症例検討会) 【日本医師会生涯教育講座1.5単位認定】		7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
18日(火)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~19:00 外科術前症例検討会 C1 18:00~21:00 救急部カンファレンス C2
19日(水)		13:00~17:00 糖尿病教室(研2)	7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
20日(木)	20:00~21:30 第58回 医歯連携セミナー 座長 熊本県歯科医師会学術理事 牛島 隆 「CKDについて」 国立病院機構熊本医療センター腎臓内科医長 富田 正郎	19:00~20:45 第122回 三木会(研2) (糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会) 【日本医師会生涯教育講座1.5単位認定】 【日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定】	7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 7:50~9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
21日(金)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~9:00 消化器病研究会 C1
22日(土)	8:30~17:00 第4回 ナースのための癌性疼痛緩和ケアセミナー(研修ホール) 1. 痛みのメカニズムと痛みの痛み 2. 痛みのアセスメント 3. 疼痛緩和の実践(オピオイド療法) 4. オピオイドが動きにくい時の対応 5. 悪い知らせを伝えるコミュニケーション(SHARE) 6. 呼吸困難、消化器症状・精神症状への対応 〈特別講演〉 「当院の緩和ケア科について」	国立病院機構熊本医療センター麻酔科部長 江崎 公明 国立病院機構熊本医療センター麻酔科 宮崎 直樹 国立病院機構熊本医療センター麻酔科医長 上妻 精二 国立病院機構熊本医療センター麻酔科医長・集中治療室長 瀬 賢一郎 国立病院機構熊本医療センター緩和ケア認定看護師 岩井 幸 国立病院機構熊本医療センターがん看護専門看護師 安永 浩子 国立病院機構熊本医療センター血液内科医長 奥 達智 国立病院機構熊本医療センターがん看護専門看護師 安永 浩子	佐賀県立病院好生館緩和ケア科部長 小杉 寿文
24日(月)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
25日(火)		18:30~20:30 血液研究班月例会	7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~19:00 外科術前症例検討会 C1 18:00~21:00 救急部カンファレンス C2
26日(水)	19:00~20:30 総合症例検討会(CPC) 【日本医師会生涯教育講座1.5単位認定】 「激進な呼吸不全と心不全の進行を認めたい例」		7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
27日(木)	18:30~20:00 日本臨床細胞学会熊本県支部研修会	19:00~21:00 熊本脳神経疾患懇話会(研2)	7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 7:50~9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
28日(金)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~9:00 消化器病研究会 C1
29日(土)	15:00~17:30 第16回 症状・疾患別シリーズ(研修ホール) 【日本医師会生涯教育講座2.5単位認定】 座長 熊本市医師会 明石 隆吉 「炎症性腸疾患の病態と治療」 1. 内科の立場から 2. 小児科の立場から 3. 血液浄化センターにおける治療 4. 炎症性腸疾患の最近の話題	国立病院機構熊本医療センター消化器内科 尾上 公浩 国立病院機構熊本医療センター小児科部長 高木 一孝 国立病院機構熊本医療センター腎臓内科医長 富田 正郎 福岡大学筑紫病院消化器科教授 松井 敬幸	
31日(月)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西

研1~3 2階研修室1~3 C1・2 3階カンファレンスルーム1・2 5西 5階西病棟 6東 6階東病棟 6西 6階西病棟 6北 6階北病棟 消 消化器病センター読書室 手術室

問い合わせ先 〒860-0008 熊本市二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター2階 地域医療研修センター

TEL 096-353-6501(代) 内線2630 096-353-3515(直通)